

学校の状況的な危機のキーワードと危機への対応法の一研究

中 田 つかを

A Study on How to Respond to Students and Teachers Crises in School.

Tsukao NAKATA

What I consider to be crises in school are as follows:

Violence and bullying in classes, not having friends in classes, over working teachers, not being able to catch up on their work, not being able to keep up with classes, failing tests, insufficient good teachers and not playing an important role in their society.

My proposal to these crises.

Teachers must have warm-hearted communication with these students.

Teachers must spare their time to chat with these students drinking some soft drinks.

Love is the best medicine for these students and teachers.

Warm-hearted communication is the best medicine both to mind and body.

The best answers are positive regard, thoughtfulness and quick responding to the students with problems.

Team teaching in class is the warm-hearted system for these slow learners.

School counselors and school social workers should be warm-hearted staff members for these students, teachers and principals.

始めに

私は1999年と2000年との2ヵ年間に、三重県のA中学校へ約80日毎週月曜日に通って、生徒や教師、校長や保護者、住民との相談に応じてきました。その体験から、重要なキーワードを選び、その危機解放を実践して進めてきました。

代表的なキーワードは次の1・1から8・11に掲げるものです。
これへの応答をしてきました。そうして危機は解放に向かって進みました。2ヵ年の間に、ほぼ数年前の状況にもどったと言う外部評価が出ました。

以下順に、危機解放の方法も示します。

状況の危機

状況的な危機は、現象的なすぐ目に入る危機的な状況をいいます。その中の主なものは、大きくは8つあります。細かく言えば、190個ほどあります。

1 生徒の間にいじめ、たかり、盗み、いたずら、暴力があり支配者がいる。

1・1 いじめがあり、支配者、被支配者がいる。又傍観者がいます。

1・1・1 言葉によるいじめ、言葉の暴力的強制があります。

仲間や先輩は、仲間はずしや陰口での攻撃をします。見にくい、匂うとかのきつい攻撃がある。身体の特長への蔑視がある。これでは楽しい面白い学校生活はできません。

1・1・2 1クラスが3つに分かれているクラスが多い。

それがクラブへも飛び火をします。楽しいクラブも嫌がらせがあるのです。集団の分裂です。分裂していないクラスもありますが、多くはありません。状況がクラスを分裂させています。

1・2 募金の強制、たかり。

少ないのは、100円、200円から大勢の人から募金を集めて20万円から5,000万円のたかりがあると言う。(20万円は三重県のある中学校で県内最大の金額に近いという)

1・2・1 高額なたかりがある。

これは三重県Bと愛知県C中学校の例です。Aでも少しはあるようですが明確ではありません。他の証言からみて多分あるでしょう。最初は小額ですから、早くから丁寧な応答が重要です。継続した対応をやさしくすすめるのです

1・2・2 貸して欲しいとか言うのです。実際は返してくれません。

1・3 盗みがある。他人の物を取る。盗む。

寂しさを紛らわす為に遊ぶお金や食べのものをかうためのお金を取ったり、集めたりします。根本は寂しさであり、人生の相手をしてくれる大人がいないのが、問題であり誰が相手をするかが緊急の解決を要します。誰が手当てをするのか、明確にすべきです。

1・3・1 靴や持ち物、鉛筆やお金などの盗み。

家に入って物を持って行く場合があります。教師の持ち物も持って行くのです。取って売ると言う者はありませんが、隠すような感じで持ち歩き、他の生徒に見せます。こうして自己の力を誇示します。所属感を実現したいのです、仲間に入りたい意欲が見えます。

1・3・2 いたずらがある。持ち物を隠す。靴、鉛筆、時計等を隠す。

目立つように隠したり、わざわざ大げさにしますが、これも相手をして欲しい気持ちを大人に訴えているのです。それが証拠に相手をまじめにすれば、隠す行為も減少します。

1・3・3 探せば出てくるのですがある種のゲームになっています。だから探すのが恒例となり、苦痛が始まります。

1・4 他人の物を隠すのです。

1・4・1 人が苦しんだり、泣いたりするのを見て楽しんだり仕返しをします。

自分の欲求が、満たされないと出る行動です。相手を自分と同じ苦しみにさせて、自分が楽になりたいと言う願望があります。これも案外と多く見られます。この状況に入らないようなストッパーが無いと、この現象は長く続きます。ストッパーとはその子を包みこむ大人です。

1・4・2 教師机の上の持ち物を隠す。

これを隠したり、持ち歩いたりして人に見せたりする。かまってほしいとか、甘えてくるものがある。家庭で甘えられないのです。厳しかったり、親が留守がちなどです。

1・4・3 関心をひこうといろいろな行動をとります。

一見でたらめのようにも、良く考えて、振舞っているのです。ただ教師がついて行けないし、友達もついて行けないのです。これが問題と言えるのです。ついてゆく大人が不足しています。

1・5 言うことを聞かないと暴力を振るう。

自分と一緒に行動する仲間を、求めています。逃げようとすれば追っかけます。

1・5・1 力を鼓舞する。

相手が生徒であれ教師であれ、その生徒の要求に応じない時は、力の対立で力比べが始まります。腕で押したり、足で蹴ったりです。教師も同様の行動で対抗しています。争いは控える方が心理的混乱を減らします。

1・5・2 大抵の弱そうな生徒は、恐れを抱く。

来ても泣いています。暴力ほど怖いものは無いのです。愛不足の子らは、弱そうな子を泣かすことで、自分の立場を広げています。

1・5・3 恐怖と怒りと憂鬱とが3重に重なって襲います。

いやになります。面白くないから来ない。来ても気分が圧迫されそこにおれないのです。と

どまれないのです。とどまるには、安心と安全が保障されないと、誰でもとどまれないのです。だから帰宅します。恐怖が怒りに代り、さらに憂鬱になり落ち込みます。自己を責めます。

1・5・4 教室へは行きません。

恐怖は本当に辛いものです。身体に1度入ると出て行かないのです。たまってしまうのです。行くという信号は出ません。赤信号が青色になりません。身体が麻痺するのです。

楽しいという希望が教室には必要です。怖い所へ行く人は大人でも、足が震えます。出足が鈍ります。

1・5・5 直接抗議が出来ない。だから間接に弱い受身の行動をします。

反発が出来ないような子供は、攻撃されやすい。されても耐えているから、とことん攻撃される時がある。受身が余計に攻撃を大きくさせます。苦痛は深くなり、人間不信が深まります。受身の立場の生徒が活発になるには、3～4人の大人の支援がいるのです。

1・6 状況が日に日に悪くなり解放の目が出ないという危機。

1・6・1 関係が切れて信用がなくなっています。

誰か第3者が入らないと修復は困難を極めます。和解の促進者が必要です。

相互に不信がたまり、嫌悪感が生まれているので、愛の強い大人数人の第三者が必要になります。

1・6・2 以上のように状況は5重にも重なっている。

その重みでさらに悪くなるのです。人間が崩れるとはこのことです。純粋な無垢な子どもは、余計に感じやすく耐えることも反発することもでき無い個性を持っています。つらいです。

2 そこでの対応方法を整理します。

2・1 たかりをする生徒と対話する。

たかり予防するように注意をしつつ、それらしき生徒との対話を強くしました。愛情の不足と欲求不満を感じましたので、少しでも満足が行くような対応をしました。

自分のパートナーが一人ふえたと実感できるように大人は応援します。その子も孤立していて、寂しいのです。依存者がほしいのです。

2・1・1 盗みをする生徒と対話する。

やはり愛情の不足と欲求の不満が蓄積していました。抑圧や不満が多くていらいらしています。気分は昂揚し何かの刺激で爆発します。批判的な対話では、反発を呼びます。そこにある子どもの苦痛や不快、欲求の不満について語り合うように、応答をします。心のケアが無い

ので、イライラしていますから安心と安全、心が静まるように対話をします。

2・1・2 校外の人の多いところへドライブに。

数人で行きました。少しは気分も晴れたようです。極度に不満が高まれば、限界を超えた行動に移って行きます。限界内に収まるように、対応してきました。欲求の一部実現をさせたのです。

2・1・3 お茶を飲むとか、ミルクを飲む。

ジュースを飲みました。ビスケットも用意しました。おなかが極度にすいているのです。気分が大きくゆれます。おなかがふくれる物が必要です。愛情の不足を、もので補充しています。

2・1・4 対応は、愛情の補充をすることでした。

私は可能な限りついて行きました。時間がなくて2回ほど校外へ行く付き合いとなりました。もっと支援者が欲しいと感じています。2回出かけると、相互信頼も強くなります。

2・2 その生徒たちを快く歓迎します。

よう来てくれたと感謝をします。背が高いとか良いベルトを持っているなあとまずは、高く評価します。何故なら来てくれないと、対応ができないのですから。

2・2・1 来てくれれば、半分は成功です。

来てくれなかったら失敗です。いつもの出会いで楽しい関係を重ねることが、いざと言う時に有効であり、日常の関係を面白く愉快的な明るい朗らかな関係にすることが基盤となります。基盤がない状態では、信用は出来ません。来談になれば信頼の基盤が作れるのです。

2・2・2 彼等は良く発達した感性を持っています。

日頃からの差別と鍛錬とで感性がある面で鋭く人を見ぬくのです。教師の盲点をつきます。教師はたじろぎます。信頼の基盤があれば、見ぬかれても穏かに応答できます。

無理して防衛する事も無いのです。許し合えることもあるのです。いつも盲点をつつきあっているのは、毎日が不愉快になります。ジョハリの窓があります。人には必ず盲点があります。良い感性を生かす工夫を大人はなすのです。

2・2・3 ある面では、批判力が凄いのです。

応答がずれている教師が居ります。努力はしてもなかなか事件の渦の中にいますので冷静な目は持てないのです。だからそのような教師は少しずれるのです。

教師も対話や討議の訓練が不足していますし、何よりも視野が狭いので、生徒の視野と大き

く乖離しております。生徒の気持ちを受けとめる訓練が無いのです。知識と教養が生徒のニーズにあっていないのです。ある面では教師は無能となり、自信を失います。急性自信喪失症を呈します。

2・2・4 長い間に支配と被支配、暴力と非暴力、いじめと被いじめ。

鍛えられたのです。生徒の人権を尊重することが、実際に弱いのです。教室の中の人権も弱いのです。構造的な欠陥が学校にあると感じています。生徒人数も26人をこえると一人の教師では、一人一人の世話は不可能です。無力感が出現します。限界性無力症になります。

2・2・5 この子らに通用する感性と「大きな広い愛情」を持って。

対応するのです。これで80%は成功です。問題は、「通用する感性と大きな広い愛情」を持っているかどうかです。

私は、伊東博に約20年間学び、又その他の日本心理カウンセリング、日本学校教育相談学会、日本産業カウンセラー協会で学んだり、指導者で応じたり、鈴鹿国際大学短大部の授業、生徒指導、発達心理学、教育心理学、心理学、ヘルスカウンセリング、カウンセリング演習、教育相談の理論と方法を教える中でも、この私の理論と方法は、支持されていると感じます。

3 教師も生徒も校長も疲労し消耗している。

3・1 多忙と疲労の連鎖。

朝は8時前から夕方、日により遅くまで会議や家庭訪問で疲れがたまります。校長はその前からの疲労があって、校長になれば急に疲れが噴出する人もいます。

30%ほどの校長はひどく疲労をしています。本当は休養が必要ですが、その上で子供との関係が厳しい学校にすれば、本当に疲労困憊となります。

3・1・1 校長は疲れている。

長らく現場の一線でがむしゃらにがんばってきた人が多い。そのためそのがんばりの限界を超えた地区では、もう足腰が動きません。自然とそうなるのです。無意識になるようです。限界性無力症となります。

3・1・2 そのような学校の校長は無力を感じる。

無力を感じたら、その常として、周囲の人に伝わります。何もしない校長と言われます。しかし個人は有能ですが、組織が機能しない状態があるのです。人間関係が希薄になっています。

教師も疲労しています。生徒にも伝わります。元気が無い状態に入ります。内に向かいます。外への力が半減します。精神力が衰弱するのです。孤立無援の心理が生まれれば学校全体の生命力は、半分に落ちます。

3・1・3 生徒や親が逸脱行動を取り続ける。

この裏には、家庭の衰弱や地域の衰弱が見られます。地域全体が衰弱傾向にあります。親が地域から遠く離れた職場に朝早くから出かけます。夕方は遅くなり8時や10時にしか帰りません。親子の対面は、週にわずかです。

月に1時間程度と言う生徒もいますし、単身赴任で3月に少しと言う親子の希薄な子供もいます。生徒の逸脱行動はなかなか修正できません。愛情が必要な時に家にいないのです。

生活環境が劣化していて、水もれ現象が起きていたのです。

3・1・4 教師は消耗し正常な感覚が低下している。

学校全体が何かと逸脱行動で会議や家庭訪問が続いて疲労は蓄積して、消耗が激しくなります。疲労の連鎖がはじまります。休憩時間も無くなりゆっくりと話し合う時間も取れません。状況に応答できる生きた感覚は低下するもの、やむをえないのが実態です。

3・2 事件が多い。

小さな事件がおこり、適切な手当てをすれば事件は大きくはなりませんが、手当ての仕方が抑圧的だと、事件は大きくなります。外部の力も入ってきます。コントロールがきかない飛行機のようになります。

3・2・1 事件が頻発します。

その対応に力が向けられ授業もうまく進みません。準備の時間も持てないのです。じっくりと予習も出来ないと言うのです。気が事件の方へ向いてしまうと、授業はおろそかになります。学習から集中が離れると教師はつらいといいます。事件の方は自信がないのです。そのような対応訓練も受けていないというのです。

3・2・2 ある生徒は教室から出て行く。

校庭にいたりプールにいたり、買い物に行きます。公園に行く場合もあります。河や海岸に近い学区では、河や海岸に行きます。子らはストレス発散となり、教師はストレスが数倍にふくれます。この二つが連鎖しています。

3・3 過労。

3・3・1 連続して事件があれば、疲労は重なり過労に。

事件は過労を帯びます。日頃の数倍から10倍程度の過労を帯びます。したがって1度過労状態になれば、入院しないと回復しない場合があります。

連続した事件はさらに事件を生む下地となり、また事件が生まれます。モグラたたきのような状況が生まれます。全体は不安定であり、安心が無いのです。強い絆も無いのです。子供は

漂流して行くのです。事件にはまるのです。または事件を起こすのです。そうしないとその生徒は生きていけないようです。事件と共に生きがいを感じている面があります。でも1年又は2年の間に脱出しないと、精神と肉体に異常が蓄積されて、大きな犯罪にまで発展しかねません。

3・3・2 睡眠不足や体調の不良、からだの異状が出ます。

過労は生命を危なくします。本人が死ななくても連れが死亡するケースが出ています。夫の場合は妻が、妻の場合は夫が若くして無くなります。また膠原病などの病にかかり日常生活がゆがむ場合が出てきます。その一部は、子どもにも及び心理が正常に機能できなくなります。

3・3・3 正常な生活や判断ができなくなります。

疲れが激しくなれば視野が狭くなり、人の言う声も聞こえなくなります。情報が限定され、判断は誤りを含むようになります。危険です。一つちがえば大事に至ります。

3・3・4 心の広い愛情豊かな感性が弱ります。

その結果、判断力も低下します。誤りも出てきます。状況はますます悪い方へと流れます。

聞く耳を持った教師が減少します。聞き耳を持たない教師が増えます。指導性があるのですが、このような学校では2つ目の目とかセカンドオピニオンとか、第3者の人とかがいないので状況は悪化します。

3・3・5 漂流する状況が始まります。

なるようにしかならないというあきらめです。これはある種の放任です。無政府状態です。危険な状態に入って行くのです。無意識の中で、事態はそうようになってゆくのです。

3・4 睡眠不足。

事件が多いと夜もストレスがかかって、安眠できないのです。睡眠が浅くなり熟睡はできません。慢性の睡眠不足がおきます。意識が十分に働かない状況に入ります。

3・4・1 私自身も朝6時30分に起きた。

8時には到着するように60km離れた学校まで90分で走ります。途中高速道路も100kmで走りますから、命がけです。普通の道路は渋滞ですから、疲れます。往復4時程度かかります。車の運転は疲れ、慢性的な睡眠不足になります。私もその状況についてゆくために全力を投入し、疲れはたまりました。

3・4・2 先生方も睡眠不足。

話して分かります。地元の先生は少ないのです。事件が起きればその心労は巨大です。2-3週間の休養が必要なほどの消耗を起こします。

だから睡眠は浅くて疲労はたまる一方です。不眠が不眠を呼ぶのです。体調が悪くなり、気分は晴れません。免疫が下がり病気が出てきます。熱がありかぜを引きます。或いは事故を起こします。こうして職場全体が活気が無くなります。生徒も元気が出ません。正常な学習や運動、地域活動は出来ないし、人間関係も良くなりません。

3・4・3 微熱があつたり睡眠が取れない状態があるのです。

あまり疲れてしまうと手遅れとなり微熱も下がらず、血圧も高くなります。血管が破れる恐れがあります。目眩や吐き気が起こります。

3・4・4 不安や心配やいざこざが重なる為です。

不安や心配は子供につきものですが大人が健康不安になり、家庭が心配となれば、子供にも不安や心配は伝わります。こうして些細なことでいざこざが起きます。小さいトラブルが多発していました。

3・5 消耗している。

気力が消耗し始め体力も落ちます。顔色も白くなります。栄養も不足になります。葉づけになる人も出てきます。危ない状況です。教師も子ども同時進行になってゆくのです。

3・5・1 過労が過労を呼び、消耗してきます。

事件は過労を呼びます。生徒もこのために疲れます。体力の無い子供が増えています。食事もう取れないと言うほど、疲れている子どもがいます。子供老人がいます。大変な事態です。

私は、先生方の消耗を止める為にあらゆる方法を駆使しました。つまり事件が起きて、私の所で時間をかけて、話を聞き感情の平静を待つのです。先生方の負担を半減させるのです。

3・5・2 お茶を飲んだり絵を描いたり詩を書いたり。

歌を歌ったりです。ギターを弾くこともありました。こうして感情の表現が進みました。事件は小さくなります。少なくはならなくても、小さくなれば、被害は小さくなります。本人も感情の昂揚が止まり静かに落ち着くのです。安心と安静の時と場所を子らに与えました。

3・5・3 安心と安全が感じられて、平和的な関係が生まれます。

子供には、恐怖よりも安心と危険よりも安全が要求されています。一定の時間、一定の場を与えたのです。一日に40分～80分がいます。

3・6 疲労が蓄積する危機。

地域の危機が学校の危機になるのです。地域は住民で構成されています。日頃は遠い土地へ出かけて働いているので、住居にはいないのです。だから住民の疲労も大きい。いらいらしています。子供へのかかわりに支障が出ています。一部の親たちは大変疲れているのです。経済的にも心理的にも、困難な経済状態があり、疲れています。

3・6・1 疲労が蓄積。

交通事故も多発しています。住民には死亡も出ました。教師も大きな自動車事故が起きました。疲労はいろいろなものを狂わしくします。教師不足、訓練不足、プロ不足のため疲労は疲労を強めていたのです。疲労が次の疲労を生むサイクルを作っています。

3・6・2 疲れているのは、学校全体、地域が疲れている。

それが生徒や教師を疲労へと呼んでいるように感じます。家族も疲れ学校も疲れ、地域も疲れています。

3・6・3 学校は地域の鏡です。

縮図です。地域の弱体化と家族の縮小は子供の成長と大人の成長にも、悪い条件を作っています。何か困ったことがあっても、人が少なくて相談も出来ません。いてもすぐ話せない。親は遠くで働いています。朝夕の語り合いが持てないでいます。

学校もほぼ同様な状況です。訪問すれば分かります。状況がわかります。大人が絶対的に、ここでも少ないのです。空白の中で子らは生きています。生きる力は弱いのです。

だから地域と同様な過疎な人間関係が見られます。温かみが無い。大人が見当たらない学校、子供があふれている学校です。そこに見る状況は、地域の困難さを反映しているのです。大人は会社やオフィスでいて、子らにふれない、子らは大人と話せない分離された中に子はいます。学校は正に日本の縮図です。鏡です。矛盾がきわだって出ています。警察も地域の鏡です。病院も社会の鏡です。親と子、大人と子どもの分離生活が子らの成長に良くない環境となっています。

3・7 落ち着きが無い。

3・7・1 授業中分からない。

分からないのでつまらない。だから出歩く。ほとんど全てについて分からない、ついて行けないという生徒がいます。小学校の基本が分かっているのです。

小学校からやりなおすことが必要な子供がいます。教師の手当てが足りません。個人まかせでは、少しも学力はつきません。それに身体を使った野外の活動が絶対的に足りません。

全力で仕事をする体験がないのです。

3・7・2 授業がほとんど分からないと言う。

本を読んでも漢字を読めないのです。字を書いても平カナばかりです。数学も同様です。計算が出来ません。英語も書けません。このような子供は100人中数人いるのです。

学校全体では、10人近くいます。ノートが無いのです。鉛筆も無い子がいます。親はほってあるのです。親の手違いが子供の能力低下を促進し、学校でも手当てが出来ていません。此れは放任だし、努力不足です。地域全体、日本全体の放任なのです。日本の貧困さの一つです。

3・7・3 だから授業は面白くないしつまらない。

何かを求め楽しそうな所へ、行ってしまうのです。またある子供は、公園へ行きます。ある子はプールで遊んでいるのです。楽しい体験を求めています。

3・8 争いが多い。

3・8・1 ふとしたことでも争いが大きくなる。

仲裁がないのでけんかが爆発的になる。直接身体にふれるかかわりが多い。触れることをいやがります。子供の中にリーダーがいないので、通訳と翻訳をする大人がいるのです。

だが此れが出来た大人も足りません。授業で、クラブで多忙です。教師は廊下も走っているのです。生徒との接触が極めて少ないのです。じっくりと話せる大人が足りません。たち止まって話せる時間がもてないのです。

3・8・2 日頃の仲間意識が育っていない。

じっくりと話せないので親しい話しも少なく、仲間と言う意識よりも、他人意識が増えていきます。だから平静さが消えている場合が多い。トラブルにすぐなってしまうのです。感情面での対立と不和がおきやすいのです。暴力化するのです。

3・9 騒ぐ。

3・9 1 人間関係が鋭く対立している。

何事も仲間意識が重要です。批判や攻撃は簡単ですが、仲裁したり和解する話し合いは根気が要るのです。面倒なことは避けますから、その分対立や争いは鋭くなっています。

この場合は騒ぎがなかなか収まることが無い。時間がかかります。数ヶ月もかかります。

一つの騒ぎは、次の騒ぎの火種を作っています。

3・9・2 騒ぐことで、自己主張をしている。

救済を待っている、ケアを求めているように感じられた。SOSを出していると言える。教師の中にもリーダーシップが足りません。ばらばらですから、生徒の自己主張を受け止める人が足りません。力量の不足は、相当なものです。人手の不足も10人から、20人程です。時に

読み、書き、計算とクラブ、その子に合ったサポートを行う大人が絶対的に不足しているのです。

3・10 たのしいことがない。

3・10・1 気分が荒いので、どうしてかなと聞けば。

楽しいことが無いと言う。面白くないと言う。愛情の交換が少ない上、親の行動が自己中心的なのです。一人よがりです。礼儀も無いのです。無作法という感じです。大人の感情が不足しています。

3・10・2 楽しいことが家でも学校にも無いと言うのです。

兄や父に殴られたとか、お金を貸さざるを得ないとか言います。夕食も食べてないとか一日一食とかいう子が数人もいるのです。一人一人の子への養護力が低いのです。

3・10・3 借金も沢山あるといます。

経済と生活にゆとりが無いのです。生徒の親の中には、朝早くから夕方遅くまで働く人、中にはさらに夕方から深夜まで働く親がいます。家にいる時間は、深夜から朝までの5時間ぐらいなのです。此れでは子供と話し合う時間がありません。うそのような親が居ります。

大変つらい状況に子らはいます。親も大変なのです。

3・11 不安。

3・11・1 このようなわけで毎日が不安の連続。

着ている服やズボンもやぶれ、私の前で糸と針でつくろいました。心が平安にならないのです。私は心の平安がふえるように対応しました。つくろいを支えました。

3・11・2 希望も失っています。

家族の生活も平安ではないようです。借金があり家族が入院したりして苦痛を感じています。希望を1つでももてるように、数人の大人の協力の輪を作りました。

3・12 親も帰りが遅いし、時々帰ってきません。

家の中が暗いのです。外へ出かけて行きます。面白き場所へ出かけます。危ない場所へ行きます。バイクで遠くへ行ったり、夜中に暴走したりします。

3・12・1 外泊。

誰かと旅行をする親もいます。子供とお年寄りがいますが、心の中に穴が開いていると言うのです。此れを埋めるのは、大変です。家族の機能が、極度に下がっています。埋める人もおりません。不安と不信とが重なって、ストレスが巨大になっています。

3・12・2 親の単身赴任。

子どもは寂しいようです。心が癒されていません。癒す人がいないのです。親子が切れた状態にあります。人とのつながるすべを身につけられないのです。親が手本を見せていないのです。この親もまた親からおそわっていないのです。親子三代、四代と同じような環境が続いているようです。

3・13 仲間が深く裂けている。

人間不信が深いのです。家庭の中での不信があり、これで地域でも孤立する。学校でも仲良くできないのです。仲良くしているモデルが、少ないのです。子どもも少ないし、皆が遊ぶことも少ないのです。モデル不足です。訓練不足です。仲間愛も育っていません。

3・13・1 友達は少なく孤立しています。

相談できる人もほとんどいません。家で昼中親と子で寝ています。または自分だけで寝ています。兄弟で寝ている家族もあります。どこか孤立してしまっている。社会参加が弱いのです。地域の活動、ごみ出しや清掃などの活動にも参加してないというのです。

3・13・2 助け合う限度を超えた悲しみがある。

あまり限度を超えている時は、助ける気持ちを持てない友達もいます。友達も我慢する限度を超えています。大人が対応するしか方法はありません。非常に限度をこえているので、対応は数人でしないと大変です。地域一体となった力があるのです。

3・14 悪循環を強めている危機。

これらの危機は、少しずつ雪ダルマ式に重なって大きな形になっています。だから解けにくい。こわすにも大変。悪い循環になっています。原因が結果を呼び、結果が原因となって新しい状況を作りだんだんとより悪くなります。

4 以上見てきたように、悪循環が始まり、危機は大きくなって行くのです。

雪だるまのようにふくらみます。私の役目は循環を切り、クールダウンが進むようにかかわります。

4・1 良く心情を理解するように、共感と肯定を持って、応答します。

あくまでも肯定的に共感を持って、純粹に関わります。愛語を使うのです。否定とか批判とかはしません。受容が一番です。

4・1・1 水平に対応します。

まったく無視されるケースも年間1－2回はありました。対決も年間2回はありましたが、クールダウンを目指していました。受容を前面に出して応答してきました。魂の救済をするのです。

4・1・2 私が最後のSOSの受容者として。

忍耐を持って対応したケースも年間2－3回ありました。勿論プロの医者や相談所等にも回しています。抱え込みはいけないのです。ミスを防止しなければなりません。人為的ミスが多い世の中ですから、特段の注意と賢明な決断が重要です。プロの多面的な連帯、協力を5重7重に行ないます。

4・1・3 嫌われたら、来なくなるのです。

継続した応答にしました。先生方に任せた部分は、多くあります。私は、職員会議には出ていません。連絡会には2ヵ年で14回ほど出ました。緊急な場合は開いてもらって出ましたが、平静になれば、担当者だけの打ち合わせで済みました。校長、教頭、生徒指導、相談、養護教諭と関係の学級担任と私です。

4・1・4 全体の協力が小さい。

あらゆる場面で、あらゆる機会での協力する機会が、絶対的に少ないのです。これは大人の責任です。子どもの放任があります。権利の擁護はできていないのです。選択の自由もありません。その意識も弱いのです。キーパーソンの力が弱い。全体をリードする人の力が小さいのです。サポーターがいるのでした。多望なため、自己の仕事で手一杯となっています。余力がないのです。

4・1・5 始めは連絡が無くて困りました。

その後毎月1回は定期的に連絡を取り合いました。教師が多忙で、クラブや委員会があり打合せの時間がないのです。ノートを作り連絡を取りました。連絡帳は役立ちました。毎週一回交換しました。いろいろの連絡です。互いの意志が通じ合うようになりました。

4・1・6 全校的なコミュニケーションを増やす。

そうでないと私が何をしているのか良く分からないと言う声がありました。メモを書いて教頭先生に毎回渡しました。生徒とどんな話をしたか、メモを作りました。具体的にメモをしました。そのメモを読めば、先生方が動きやすくなるようにしました。

4・1・7 生徒の苦しみは何か。

生徒の家族はどうなっているか、生徒の希望は何かなど。つらいことが山ほどあります。

親のこと、兄の借金のこと、食事のこと、衣服のことなど切りがなほどの苦しみがあります。

4・1・8 こうして共通の認識が進みました。

それで生徒の事情もわかりました。応答が冷静になってきました。生徒の反発も減少しました。4月に入り、9月から変化が大きく出てきました。その子らの苦痛は山のように大きいといえます。

4・2 担当者まかせを止める。

なにがあっても一人ではなくて、二人以上で取り組むように要請して、行動を進めた。

一人の判断ではミスが生じやすいので、必ず二人以上の判断を求めました。

4・2・1 始めはすべてが担当の意思に任されました。

共通理解がすすめば、協働の行動も出きるようになりました。私の知らないことは、沢山ありましたので、教えていただいて助かりました。

理解が正確に出きるようになりました。生徒が良く見えてくれば、生徒の反応も穏かになりました。始めはいらいらして、私にあたる生徒もいました。落ちついて楽しく対応しました。楽しく面白くすることが大切でした。

4・2・2 担当者が一人で抱え込むのを止める。

頑張っても穴の開いたかめのように水は、もれてしまうのです。協力者を教師の中に増やしました。分かってももらえない教師も残念ながら数人いました。

4・3 分かってくれる先生と分かってくれない先生は同数です。

学校はうまく機能できないのです。しかし私は理解者を増やすように工夫しました。

人の心を理解できる先生と、分かっていない先生はほぼ同数です。

4・4 村の広報でも毎月執筆できました。

村人の声も聞こえ始めました。毎月半ページを頂いて、執筆しています。村の人の支持を得ることで、生徒、親、教師の協力をえやすくなりました。

4・5 生徒への手紙も、全員に数回出しました。

学年べつに文章をかえて、しかも全学年への手紙とし、全てが読めるように渡しました。

全く別の角度からみた思いを、生徒全員に伝えていったのです。

5 目標が持てないでいる。

目当てを持つことは、元気と勇気への入り口です。また振りかえる機会を作り出します。
小さい目標作り、大中の目標作りを粘りつよく子らとしました。

5・1 学校全体に共通の目標が無い。

古い死んだようなものは、掲げているが、訴えるものは弱いのです。今ここでの目標を適切に掲げる必要を感じました。

5・1・1 あるのは少し古い適切でないものです。

だから掲げてはいるが実行していないと感じました。目標も適切に設定することが、お互いにも重要です。今生きている目標を作る努力が不足をしていると思いました。

5・1・2 直面した課題に適切な方針がや目標が必要です。

共通した目標が無いと力が出ません。理想と現実との双方に関わる目標が力をもちます。

人生全体にかかわる目標と今ここで実行すべき目標の両方の目標がいます。はっきりとはしてなかった。

5・2 各教師に共通する目標が明確になっていない。

十分な議論が、弱いのです。だから曖昧なままになっています。共通の目当てが無いのです。個人的な判断になっていて、意識が低い状態にあるのです。子どもへの対応が進まないでいるのです。漂流して状態です。一人一人の判断では無理なケースが沢山出ています。

5・2・1 各人任せ。

各人は懸命にしているが、効果が大きく出ないのです。協力する具体目標もいるのです。
生徒とのすれちがいがあり、親との協力が小さいのです。

5・2・2 学級王国そのものです。

一人で或いは二人では、出来ないものがあります。5人以上が協力すれば、できます。特に20人以上の結束は、効果を大きくします。人手不足のため、教師全体の力が十分に出せない環境にあるのです。

5・3 抱え込みと抱えはづしの二極です。

一部のこどもは抱えられたが、一部の子は、はずされています。これが激しいのが今の日本全体とも言えます。小さな学校でも言えるのです。2つに分裂したままになっています。

5・3・1 一部の生徒は、怒り出すのです。

教師と生徒の対立がありました。人が足りないのです、出きることもできないのが現状です。協力もしないし、無死したり状況を放置するのです。決定ができないまま漂流するのです。

5・3・2 各人まかせでは、危機は増大しますが、解放しません。

子どもも相手にされないと、余計に暴れるのです。危機は次の危機の源泉になります。簡単な危機から、複雑な危機へと進化するのです。

5・4 各生徒の個別の目標がない。

子どもも目標づくりが進んでいません。漂流しています。だから不安が起きてきます。信念も無いのです。小さい仮の目標探しをすすめました。

5・4・1 子供たちもほぼ同じようにバラバラです。

全く個別の目標がない生徒が10人から20人いました。この子らと話すのが大変でした。少々のことでは、目標は作れないのです。半月かけて作りました。

5・4・2 一部の子どもは、しっかりした目標を持っているようです。

およそ50%はしっかりとしています。だが30%の子どもは、目標を持ってないでいる。これは悲しいことで、いきる力が増えないのです。白けてくるし、仮想空間や世界に流れて行くのです。現実逃避の行動に走ります。人格もゆがみます。はつらつさが消えて、沈んだ世界に下がります。

5・5 地域の目標が不明確。

個別の行事はあるが、子どもをどう育てるかと言う点で、家庭任せでした。共通の目標が曖昧でした。子は社会の宝であり、次の形成者、発展者です。この意識が少なかった。

5・5・1 地域の人は困っていたようですが、共通の目標を出せないでいました。私は数人の有力者とあって、協力を依頼しました。それで理解が進んだようです。

首長、議員、教育委員さん、青少年育成協議会の方の共同活動がいます。

5・5・2 学校と地域との対話が切れていました。

私は、時々つなぐような連絡をしました。電話も入れました。青少年育成協議会があるので。村の区長さんもいます。その代表者の協力が必要でした。

5・5・3 地域の仕事に大いに参加させるよう要請。

そうすれば、これらの子供はうんと働くのです。その面倒を見る人が足りません。子供は犠牲者です。子供に仕事役割を再度与えよう。子どもも大人も地域の仲間の中で育つのですから。勿論大人の世界は、子どもの世界よりも広いのですが、仕事や任務を与えるべきです。

5・5・4 日本社会の盲点です。危険がひろがっています。

地域が狭すぎて、適当な仲間を選択する場所が無いのです。自治体が細切れになりすぎて、サイズが小さすぎます。学校のサイズも大きすぎたり小さすぎたりします。

適正な規模に改善することが重要です。学校の教師も、もっと教師などを増やし、子どもを大切にしないと社会崩壊がひどくなります。犯罪も激増し子どもも犯罪に走ります。

社会生活を創造する気持ちが育たないでいます。

5・6 親の目標も不明確、学校まかせ。

親も子どもに自分の生涯について、話していないのです。子どもは知らされていません。ホテル住まいのような希薄な感覚で、生きています。生きる力を親からもらっておりません。

5・6・1 会いたい親もなかなか忙しく、会うことが難しかった。

こちらから行った家もあるが、行っては行けない家庭もあったのです。家庭の事情があるのです。なかなか会えない家庭でもあるのです。

5・6・2 親の学校も此れからは必要です。

毎月1日、2ヵ年通うと良いのですが。親としても学習と訓練をしないと、子どもに適切な対応ができないのです。親としての責任と役割が行えないままの大人が増えています。再訓練、再学習がいるのです。

5・7 家庭訪問も困難な家があるのです。

何時訪問しても、親がいない子どもだけの家庭があります。近所の方の協力が必要な家が数軒ありました。地域の方のサポートがおきました。

5・7・1 家庭訪問も、沢山しないのですから。

仕事を理由にしないで、年間2、3日は家にいてほしい。午後から夕方にかけて家にいてほしい。企業も役所も親の義務を無視しないでほしい。仕事で忙しいと言うけれど、子どもも重要です。子も親も共に重要な人なのです。人は職業だけでは、育たないのです。

5・7・2 子供の基本的権利が危ないのです。

いらない子とか、勝手に生きたらよいと言う親がいます。親自体の生活が機能していないのです。親の病気と、支援不足があります。

5・8 自治体の目標も不鮮明。

家族の問題であっても、支援すべきことはしないと、不幸が不幸を地域に呼びます。地域を良くすることが、結局楽しい地域を作ることになります。新しい地域社会作りが急務です。

5・8・1 教委と生徒が一致していない。

始めは自治体も目標が不鮮明でしたが、半年たつと少し評価されました。首長、教育長の力が大きな役割を果たすのでした。

5・8・2 1年たつと目標も出来てきた。

私が1年間40日ほど通いましたが、やっといろいろの課題が明確となり、それにつれ対話も進みました。いろいろの分野での目標もできてきたような、感じを受けました。

5・9 政府の政策も不鮮明。

状況を見てください。良い場所ばかり見ているから、現実の課題には役に立たないのです。フラット見れば良いのです。事前に連絡をすれば、断られます。隠されます。目隠しされた人がおれば、何も分からずじまいです。象の足の裏も触って欲しい。

全国調査も少なく、盲点を大きく持ったままで、漂流していました。学校の構造改革で少しだけ動きが出ました。学者ももっと現場の声を大きく出すべきです。現場は仕事で声もかすれています。声も出ないほどに余裕が無いのです。声を出したいが、張り上げる力が消耗して出ないということです。

5・9・1 自治体首長も、国民の生活を知らないでいる。

生活を起点にしていないのが、大問題です。子ども起点に徹して欲しい。自分の理想よりも、子どもへの奉仕に徹して欲しい。学校をもっと注視して、援助をしよう。見学もしよう。

5・9・2 中途半端が多い。

効果が今一つ出ないのです。弊害が出ます。現場を10個ほど見れば、中途半端なことが分かります。3つ4つ見て判断をしないことです。10個見れば、良いのもあるし悪いのも見えるはず。3つ4つ見て、問題がないと言うような甘い判断は、避けなければなりません。

6 対応策

6・1 私も青少年育成協議会の総会で。

6・1・1 総会で話しを50分。

私の決意表明となりました。私もやりがいがあったのです。会長は、村長さんです。
村民との相互理解が始まる場が広がりました。

6・1・2 新聞社も3社来て、2つで翌朝。

地域の人は勿論、周辺の地域にも広がりました。参加者は80人程度いました。
村全体にPRするのに役立ちました。

6・2 新聞。

村の人の気持ちを高める為に、新聞は大きな力を持っています。子らの気持ちにも変化がでてきました。村にパワーが生まれたと感じたようです。新聞は人の意識をつないでいます。

6・2・1 村の人も良く読んで。

村人も相談にきてくれるし保護者もきてくれたのです。情報が広がれば心が強まりました。

6・2・2 生徒たちも注目して。

共通の話題ができました。住民の理解が重要です。話題も提供できたのです。

6・3 子供は宝、自治体の行事に参加を。

具体的な作業に子どもが参加できることは、子どもの心の栄養、からだの栄養となります。
地域という大きな家庭が子の成長にいるのです。地域は家庭の役をします。

6・3・1 子供は喜んで働きます。

子どもの出る機会が、昔よりも減りました。場所と機会を与えるのが、少ないのです。子ども的人格形成に悪い効果を与えています。

6・3・2 子供を怖がってはいけません。

大人は子どもを怖がっていないでしょうか。子どもに堂々と機会を渡すのです。禁止ばかりしないで、挑戦をさせましょう。子供が喜べば、親も嬉しいのです。老人会も支援してほしい。

6・4 いろいろのレベルの目標が必要です。

個人の、家族の、友達との、グループの、クラスの、学年の、学校の、地域の、日本の、世界の、あらゆる目標が明確に必要です。

6・4・1 私なりに例を出して目標づくりを訴えました。

それぞれの目標について、提案をしました。家訓づくり、家族会議、親子の団らん、家族の小旅行、ボランティアなどです。

6・4・2 3つから5つほどの目標を作るように言いました。

そのうちに仮の目標を作ってきました。軽い目標もあれば、重い目標もありなかなかやれると感じたものです。環境を作れば、やる子です。

6・5 生徒、教師全員に通信を渡す。

6・5・1 教師にも、月の訴えとポイントを訴えました。

其れなりに効果が出てきました。週に1日しか来ませんから、忘れた頃にやってくるという状況です。だから来ない日には、電話とかFAX、メモを用意して、通信を細かくして共同の行動をするようにしました。子や教師はほぼ毎日学校にきているのです。生活の場に学校がなっているのです。学校は第二の家庭となっています。

6・5・2 やはり愛情と言う栄養を渡すのです。

説教でなく思いやりと行動のできる仕事と気づかいと高い評価を与えるのです。厳しい評価では、効果が半減します。

6・6 教師の研修会。

教師も疲労で熱を出し、帰宅する人もいます。だから疲労を軽くするような内容と目標のものが基本となります。押し付けしないで、力を引出し余裕を持てるように進めました。

6・6・1 研修会を楽しく且つ直面している今の状況を改善するものを。

ただ生徒の問題が起きて研修に参加できない教師も4割近くいるので、成果は予想を越えて少ししか出ないという状況でした。それでも年2回の研修に私も出席し、提案させて頂きました。全員参加の研修会が望まれます。

6・6・2 事件。

そのために参加ができない教師は、35%程度いつもいて、寂しい感じがしました。研修をしないと悪循環は、断ち切れないのですが、現状はこの悪い循環が生きていて良くない状況を温存しています。絶対的に大人、教師が、プロが不足していたのです。

7 教師機能

人数が中途半端です。全ての生徒へ対応ができないでいます。放置され放任されている生徒

は、暴れたり泣いたり沈んでいますから、様子が違うので分かります。人手不足が最大です。10人近く足りません。200人の生徒ですから、20人の常勤と数人の非常勤がいる。

場合により、20人近く不足を感じました。

7・1 1年間は、大変でした。

その前の年が大変だったようです。私は見ていないが、感じとして分かりました。高校でも中学校でも、ごく少数でも極端な生徒がおれば、全体は一種のパニックになり、雰囲気警戒感が滲み出します。恐れを感じている目つきとしぐさで分かります。

7・1・1 授業

授業中でも、騒々しい学校があります。高校でも中学校でも校舎に近づけば騒音やけんかの声が聞こえます。生徒も両極に分かれるのです。

良くわかっている生徒とまったく分かっていない生徒に分かれますから、指導は1人では無理です。少なくとも2人が必要です。1人は補助者で良いのです。一人が両極を見るのは、至難の技です。

また子どもの先生という方法がありますが、やはり2人の指導者が張りつのが良いのです。緊急の増員を。全ての子どもに応答できることが、ひとつくりであり、人が日本の財産であり、社会の原動力です。今この原動力が不完全燃焼して、車が走らない状況にあります。日本社会の危機です。崩壊の始まりです。

7・1・2 異常な音。

人がいないような学校もあるのです。でも事件が多い学校は、休み時間か授業かはわかりません。長い間相変わらずお昼休みのような喧騒が続く時間帯があります。

勿論全体と言うことではなくて、ある学級の付近ですが。学級によっては、まったく静かで人がいないような授業もあります。良い悪いは別にして、そのように感じます。明るい声は歓迎です。悲しい声は気になります。

7・2 生徒指導

部分的にはしていますが、人手が足りないのです、十分にできないのです。事件の手当てに負われるのです。生徒を世話するプロが2～3人不足しています。

7・2・1 2－3人が全力でも子供には追いつけません。

10人が暴れば、走るの速いし言葉も荒いし、力ではなかなか対等になれません。人間愛と忍耐と地域の協力が、かせません。少なくとも数人の補充が急務です。

7・2・2 知恵ある方法, 人間的な方法

自然を愛する共通原理を持つのです。研修する時間も取れないのです。知恵のある村民の協力が必要です。

7・3 全体が暖かい雰囲気

学校, 家庭, 地域の3つの団結が重要です。三つが別々では子らは育ちににくいのです。この三つが子らの育つ巣になっているのです。

7・3・1 全体が意思を表明。

全体の議論をするのです。そうすれば理解者が増えます。でも少人数の学校では, 議論もできないようです。20人はいないと, 教師も元気が出ないようです。10人程度では結束も弱いようです。

7・3・2 生徒の心の支援ができていない。目線を水平に開いた応答が重要です。

支援者がいない学校だった。私とその役割をすることを感じた。生徒と教師との心の支援を, 特に直接子供の支援を2ヵ年した。10人程の生徒には大きい愛情が必要でした。

7・4 クラブがうまくいっていない。

クラブでたたかれたり, はずされたりで止めたいと言う声が多い。200人で10ほどのクラブです。うまく選択もできないのです。20のクラブが必要ですが大人不足でした。

7・4・1 先輩が後輩をうまく指導していない。

先輩はどうしたら後輩は良いかという経験も蓄積されますが, 1度切れてしまうと, 大変な事態が起きます。丁度倒れた家を建てるほどの困難です。もとに戻す苦労は言い様もありません。0からの再建には労力が巨大にいます。

7・4・2 先輩が荒れ出すと, 後輩もあれる。

学校の流れがおかしくなります。荒れが荒れを呼んで, またあれます。先輩と後輩との対立も起きます。こじれます。生徒の気分の流れがスムーズでなくなります。

7・5 人間関係

家の中で, 地域で, 学校での関係が切れています。人間の信用を取り戻すことが今の重要な課題です。家, 学校, 地域を結びつける人がいるのです。

7・5・1 つなげる人

指導者がいるにはいるが本当の分かった人はいない。今も子供は好きと嫌いがはっきりとしていますので、遠慮とか忍耐とかという美徳がありません。一部の子供は別にして。そこをつなげるのです。

7・5・2 人間と人間とを結ぶところと思いやり

険しい区別があります。拒否があります。だから人を結ぶのも大変な労力が要るのです。

7・6 学力差が広がり、改善ができないでいる。

理解力があるこどもと全く小学生の知識しか無い子どもの2つに分かれています。双方を満足させる授業は、1人では至難の技です。小学校六カ年の役割が大切です。小学校から放置されてきたのです。中学校でさらに、学力がつかないで崩壊しています。字が書けないのです。読めません。

7・6・1 学力差が大きい。

最低の学力の確実な保証をする人が学校に必要です。学力差は、年々大きくなり、深刻な問題となっています。6時限が終ると全ての教師は、クラブに走ります。学力の小さい子は、手当をされないで日がたってしまいます。一日二日苦痛は深まります。

7・6・2 早く手当てをするのです。

人の手当てをするのです。指導者が足りません。補助者を導入して欲しい。

国語、数学、英語など3人以上の補助者をふやしてほしいのです。

7・7 家庭では無理なケースがあります。

家庭の崩壊があり、子どもは悲惨なままになっています。親に言っても無理なケースが多いのです。地域の力で人を補充してほしいのです。社会人指導者です。

7・7・1 家庭でも養育する大人が足りません。

親がいなかったり、いても子供を放任したり、暴力を振るったりで、適切な家族がいない場合があります。親自身も家族をリードする能力を持ち合わせていないのです。

親子代々、中途な力で子供はゆがんでいると言う家族に出会います。3%ほど、困難な親子がいるのです。地域によりふえています。

7・7・2 親との関係

教師と親ともこのような事情で、うまくかみ合いません。適当な達人が学校や地域に必要で

す。子育ての達人が集まって、支援をしよう。村にも5人以上の達人がいるはずです。

7・8 親と教師との人間関係

親も教師も双方が多忙な中では、関係を持つのが困難です。親と教師双方を代弁できて結びつける仕事をなす人がいるのです。数人は用意します。

7・8・1 一部の親と一部の教師は、相性が合わないので紛争の寸前です。

第3者が入っての対話が必要です。専門的な人がいるのです。いろいろと対立が生まれていますので、協調、結合をすすめる人がいるのです。

7・8・2 親と子供との人間関係がおかしい場合がある。

また教師と生徒との関係が持てないでいる場合が多い。持っていても、電話だけです。突っ込んだ会話を拒否するのです。難しい親が居ります。親子の不和が大きく、早急に和解させる役割をする人が必要です。

7・9 切れやすい状態にある。

感情がうまく制御できない親がいます。じっくりと話せば良いが、少し機嫌が悪い時は、大変です。話しが出来ません。話しをそらします。だから結局話さないで、帰ることもあります。

7・10 心身の消耗で休む教師が増え、授業が不安定。

その為に教師は、疲れ消耗してゆく。身体に症状が出たり気分が落ち込んだり、目眩がしたりして授業に出る気力が消え、休んだり不安定な状態での授業になってしまう。各学校に一人や二人はいるのです。

8 対応策 プロ教師スタッフ、援助者が不足している。

つまるところ援助する人が学校には、大きな不足となっているのです。

8・1 学校

自分でも意識しないし、校長も意識できないし、教員も親も大きな盲点を持っています。身動きができない状況があります。要望しても無視されて封じられているのです。

8・2 教育委員会

首長も意識できないでいる場合が多く見られる。30-40%は強い意識をしていない。意識できる校長は、20-30%程度だろう。意識者が少数なのがそれ自体で、未然に緩和できず、危機を拡大していると言える。首長のリーダーシップが求められているのです。

8・3 心の援助者が不足

具体的には、生徒や教師や親の意識、教育委員会や首長の心の支援ができない人がほとんどである。私は、この点で挑戦し実践を続けている。

8・4 組織の援助者

学校も組織だし組織の機能を高めるには、其れなりのプロが必要です。その手当てが要るのです。少なくとも2－3年の訓練を受けていないと対応が出来ません。

8・5 教育委員会も。

教育委員会も人の手当てを考えます。県内からまたは近県から、人を呼ぶことです。何処かには、適当な人がいるのです。すぐれたプロ集団を各地に作る。

8・6 青少年育成協議会

この根幹の組織への援助が不足しています。最小の自治体は村、町ですが、小さな自治体では、援助者を確保するのが、難しいのです。

8・7 多くのプロは、都市部に住んでいる為です。

私は、鈴鹿市から90分以上をかけて曲折した危険な道路を走って通いました。朝は6時頃から夜は、19時や23時にもなったことがあります。保護者との懇談の為でした。やはり直接会って対話をするのが、私には重要な仕事でした。親も私を見て安心をしてくれました。電話では十分には話し合えません。電話でも30分、50分と話し合いました。

8・8 教師の支援者

8・8・1 1学年2学級、3学年6学級の学校で教師は12人程度。

非常勤3人と管理職2人、職員2人とその他の合計20人ほどです。常勤の教師が不足しています。例えば放課後は全員クラブに入っていますから、学力の補習が出来ません。余裕が無いのです。クラブ指導も12人では足りません。

子供10人に教師は1人は必要です。200人なら20人程度必要です。8人程度足りません。学力の補習も2－3人は必要です。補習専門の大人がいるのです。

8・8・2 授業についても1学級2人で授業をすれば。

持ち時間が大幅に増えます。やはり8人程度の補助教員が必要です。授業がわからないと言うことは、人的資源の損失です。学力の劣る子供を放置しています。

日本にとっては大変な損失です。軽く考えないでほしい。その損失はいろいろの姿をして形となり、めぐりめぐって結局は、国民全体の損失の拡大になってくるのです。優秀な子供を沢

山育て、どの子も活躍する社会が、今の課題です。一人の悲しむ子を放置してはいけません。

8・8・3 日本はほころびかけています。

学校が危険なところと言うのは、社会が危険水域に入って証拠ですから。その証拠は、新聞やテレビ、週刊誌や警察に聞けばはっきりとします。

警察も危険な状況にあります。警察崩壊です。治安崩壊です。アメリカは他山の火事ではありません。一皮むけば、日本の方も危ないのです。

8・9 保護者の支援

8・9・1 保護者も子供の時から、十分な保護をされて養育されていない場合があります。

今その付けが、子供を前にして、噴出しています。

例えば、自分は一人で暮らしてきた。今の子は贅沢だと言って、頭から暴力を振るいます。

昔は暴力もあったが、今はその暴力で人格をゆがめられているのです。文化の違いがあり、親は許されても、子供は納得できないのです。子が親を殺したりします。親の子殺しが一方で多くあるのです。

8・9・2 子供の人権を守りながらの養育態度

此れに欠ける親が目立ちます。周囲の支援が無いのです。親の成長が、十分保障されて居りません。支援も少ないのです。親の意識が育っていない大人が多いのです。

先輩の支援が少ないのです。個人主義の限度を超えた態度があって、連帯の気持ちが少ないのです。狭い個人主義が広がっています。助け合う風潮が少ないのです。適当な研修の場がないのです。

8・10 クラブの指導者

教師が不足して、クラブが10個しかないのです。生徒は20クラブは欲しいのです。指導者は教師以外の人が当れば良くなります。方針を転換するのです。社会人指導者が20人。

8・10・1 200人いたら、20のクラブ

実際は10程度です。此れでは個性の尊重も口先だけになり、心のこもったクラブ活動は出来ません。教師も学習の補習をすべきですが、クラブで精一杯となっています。村民の中から20人のクラブ指導者が困難なら隣接町村からの支援もいるのです。

8・10・2 クラブ指導者も生徒200人なら20人以上、必要です。

適材の人を地域から出すべきです。教師は、もっと広く地域での活動子供とすべきです。10人以上のクラブ指導者を、校外から入れるべきです。教師は5人ほどにして後15人は、地域

の人に指導者を頼むべきです。教師は、補習やその他の仕事に勢力を入れるべきです。

8・11 地域での支援者

8・11・1 子供が地域から離れると、生活感覚が出来ません。

宙に浮いた根無し草となります。この意味で日本は、根無し草の集まりになってきています。危険な兆候です。幻想の中での生活は、大きな力で簡単に壊れます。米国を見ればはっきりと分かります。日本も世界大戦で敗戦をしたのに、その教訓を忘れかけています。

此れでは、日本の発達も砂の上の楼閣です。いくら頑張っても、水は砂の中に入るではありませんか。恐ろしい事が実は起きています。今度は、若者がそうなれば、日本崩壊です。日本沈没です。今少し傾いています。タイタニック号のような感じがします。速く助けることです。古い日本は沈没です。新しい日本が浮上するサポートが必要です。

8・11・2 子供に地域を調べさせよう。

美しくさせよう。大人も協力しよう。この輪の中で本当に子供は、人間になれます。今は人になっていないのです。幻想に生きている孫悟空です。

此れは周囲の大人の責任です。政府も文部省ももっと子供に接しよう。暴れている子供こそ、力を出せます。青白い子供ではなくて、野外で美しくする行動する場と時間と自由を与えよう。

子どもは宝です。もっともこの貴重な宝物が、成長し発達するような環境を提供することが重要です。大人、教師、補助者、支援者、支持者、専門家、医者、相談所などの人の強い連携が重要です。こどもに大人はもっと手厚く、世話をしよう。プロも加わろう。OB、OGも加わろう。高齢者も若者も、加わろう。

村民だけでは、人不足という面もあるでしょうが、数人はいると感じますので、村民あげてのとりくみが必要です。学校見学だけでなくボランティアで学校に入ってほしい。

どうしたら地域が良くなるのか、子どもにアイデアとともに行動で改善をしてもらいのも重要です。広い地域の総力を挙げて、子どもの教育に全力をあげる時がきているのです。子どもの成長と発達に誰も全力を入れなければ、この悪化した学校は良くはならず、財産である子どもは、異常になれば、その分日本は衰退します。もう衰退は速度を上げて悪い方へ崩れつつあります。容態は、最悪の状況です。(最近良いニュースが入りましたので、少しほっとしているところです。)

終わり

参考文献

- 1) 村山正治, 山本和郎 [1995]: スクールカウンセラー, p 278, ミネルヴァ書店
- 2) 氏原寛, 村山編著 [1998]: 今なぜスクールカウンセラーなのか, p 240, ミネルヴァ書店
- 3) 伊東博 [1999]: 身心一如のニュー・カウンセリング, p 323, 誠信書房
- 4) ヘレン・コウイ, ソニア・シャープ編, 高橋通子訳 [1997]: 学校でのピア・カウンセリング, p 210, 川島書店
- 5) アレン・アイビー著, 福島真知子外訳 [1985]: マイクロカウンセリング, p 265, 川島書店
- 6) 村井実 [1996]: 人間の権利, p 285, 講談社
- 7) 下村哲夫 [1997]: 学校の条件, p 283, 学陽書房
- 8) 河合隼雄 [1996]: 人生学ことはじめ, p 229, 講談社
- 9) 杉田峰康 [1976]: 自己分析, p 273, 創元社
- 10) ジョン・デュセイ著, 池見・新里訳 [1980]: エゴグラム, p 300, 創元社
- 11) 内山喜久雄 [1988]: 行動療法, p 183, 日本文化科学社
- 12) 吉本伊信 [1965]: 内観法, p 288, 春秋社
- 13) フォーリー著, 藤縄, 新宮, 福山訳 [1984] p 360, 創元社
- 14) 平木典子 [1997]: カウンセリングとは何か, p 183, 朝日新聞社
- 15) 霜田静志 [1995]: 叱らぬ教育の実践, p 213, 黎明書房
- 16) 妙木浩之 [1997]: 父親崩壊, p 254, 新書館
- 17) 桂圭介, 原野外編著 [1982]: 母親の役割, p 222, 金子書房
- 18) 大原健士郎 [1996]: 家族愛, その精神病理, p 228, 講談社
- 19) 斎藤学 [1996]: アダルト・チルドレンと家族, p 237, 学陽書房
- 20) ファーカス, バッカー著, 内田浩外訳 [1996]: マキシマムリーダーシップ, p 342, 講談社
- 21) 村本邦子 [1997]: 「しあわせ家族」という嘘, p 265, 創元社
- 22) 服部祥子編 [1995]: こころの危険信号, p 187, 日本文化科学社
- 23) フリエル著, 杉村省吾外訳 [1999]: アダルトチルドレンの心理, p 245, ミネルヴァ書店
- 24) 橘由子 [1996]: アダルトチルドレン・マザー, p 229, 学陽書房
- 25) 町沢静夫 [1990]: ボーダーラインのこころの病理, p 194, 創元社
- 26) 管佐和子 [1988]: 思春期女性の心理療法, p 240, 創元社
- 27) クレイマン, ラスキン著, 村本・山口訳 [1996]: 赤ちゃんを愛せない, p 312, 創元社
- 28) バソフ著, 村本・山口訳 [1996]: 娘が母を拒むとき, p 249, 創元社
- 29) アレン・クライン, 片山陽子訳 [1997]: 笑いの治癒力, p 276, 創元社
- 30) ボルド著 [1994]: ポジティブなものの言い方, p 211, 大和出版
- 31) 嵯峨野雄也 [1990]: ボデイ・コミュニケーション, p 148, ケイ草書房

- 32) 信田さよ子〔1998〕：愛情と言う名の支配， p 222， 海竜社
 - 33) グッドラード外著， 伊東博訳〔1977〕：人間中心の教育を求めて， p 261， 誠信書房
 - 34) 前田嘉明， 岸田元美監修〔1986〕：教師の心理， p 325， 有斐閣
 - 35) コンドン著， 近藤千恵訳〔1980〕：異文化間コミュニケーション， p 263， サイマル出版会
 - 36) 中村元〔1985〕：東洋のころ， p 266， 東京書籍
 - 37) 中沢たえ子〔1992〕：子供の心の臨床， p 236， 岩崎学術出版社
 - 38) 河合隼雄〔1993〕：中年クライシス， p 220， 朝日新聞社
 - 39) 田上不二夫〔1990〕：登校拒否・家庭内暴力， p 177， 黎明書房
 - 40) 斎藤勇〔1986〕：対人心理の分解図， p 244， 誠信書房
 - 41) 中田悌夫， 栗屋かよ子〔1986〕：自然と人間復権の教育， p 268， 一光社
 - 42) 中田悌夫〔1990〕：カウンセラーへの道， p 252， 一光社
 - 43) 中田悌夫〔1993〕：グローバルコミュニケーション， p 173， 一光社
- 以上